

BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.3 Vol.787

# 文学座通信

- アトリエの会『リセット』  
キャスト・スタッフ・人物相関図…………… 1  
自分のための「物語」—————山崎元晴…2  
『リセット』という地図を手にして—西本由香…3  
公演情報…………… 4
- 文学座あれこれ—————矢野誠…5
- 本公演・地方公演  
『肝っ玉おっ母とその子供たち』…………… 6~7
- アトリエ短信…………… 8

文学座3月アトリエの会 後援=新宿区



文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

## リセット

作 = 山崎元晴 演出 = 西本由香

### スタッフ

- 美術 = 杉浦 充
- 照明 = 賀澤礼子
- 音響 = 丸田裕也
- 衣裳 = 萩野 緑
- 舞台監督 = 寺田 修
- 制作 = 梶原 優  
井口 碧  
沼田利生
- 演出部 = 的早孝起  
大内一生  
戸塚 萌  
宮城円香  
岩佐美紀
- 音響操作 = 池田優美
- 照明協力 =  
ステージ・ライティング・スタッフ<SLS>
- 宣伝美術 = チャーハン・ラモーン

若い男  
祖母のヘルパー



比嘉崇貴

聖人の祖母



赤司まり子



ヨシユキ



木津誠之

夫

ユカリ



石井麗子

聖人の母



奥山美代子

息子

聖人と名乗る男



越塚 学

訪問者

家の修繕作業員を名乗る男



沢田冬樹

レナ



夏八木映美子

彼女はその部屋を20年もの間そのまま保存し、  
帰らぬ息子を待っていた。  
時が止まったかのようなその古家に、家の処分を迫る妹夫婦や、  
高齢の母を介護するヘルパーが訪れる。  
ある朝、彼女がいつものように部屋に入ると、  
消えたはずの息子が立っていた。  
あの頃とは違う、大人の姿。  
果たして彼は本物の息子だろうか？  
胸の内で築き上げた精悍な息子の姿とは相反し、  
虚ろな目をして佇むその青年は、自らの居場所を求めて  
たった一言「ただいま」と言うのであった。

アトリエ短信



■訃報 川辺久造

元演技部で座友の川辺久造さんが、1月26日、肺炎のため亡くなりました。享年92。

1932年 神奈川県出身。53年文学座附属演劇研究所に入所し、アトリエ公演『幻の国』で初舞台。57年座員に。代表作に森本薫作『女の一生』の伸太郎役など。テレビドラマでも活躍。知的な悪役なども多く演じました。

2015年、長年にわたる演劇活動の成果により第50回紀伊國屋演劇賞・50回記念特別賞の田辺茂一賞を受賞。2016年には、加藤道夫を再検証すべく「劇詩人・加藤道夫を読む会」を立ち上げ、座内有志による勉強会として『挿話(エピソード)』を「トライ・リディング」と銘打って上演しました。謹んでお悔やみ申し上げます。

第32回読売演劇大賞優秀男優賞受賞！

第32回読売演劇大賞が発表され、浅野雅博が、文学座『オセロー』とヒトハダ『旅芸人の記録』の演技により優秀男優賞を受賞しました。

「ヤサ男が似合うと言われる俳優だが、「オセロー」は主人公を陥れる家臣のイアーゴ役で「肝の据わった悪党を演じきった」、「旅芸人の記録」では「中心に構える風格も見せた」とたたえられた」と評価されています。

第17回小田島雄志翻訳戯曲賞贈呈式

1月24日、第17回小田島雄志・翻訳戯曲賞の贈呈式が、あうるすぽっとで行なわれ、受賞作『アンドローラ』十二場からなる戯曲』のキャストやスタッフが出席しました。実行委員の一人、小田島恒志氏から「一九六一年に書かれた作品で、文学座は一九六八年に上演しています。過去の作品を新たに翻訳して上演する際は「今やる意味」が必要ですが、日本の観客に世界のありようを見てもらう翻訳劇の意義がよく伝わる舞台でした」と選考結果が発表されました。

スタッフとキャストを代表し、演出の西本由香が「六十年ほど前の作品を、時代や文化の違いを飛び越えて今につながる言葉にしてください」と長田紫乃さん、ありがとうございます。上演当時、ガザの空爆が激しくなっており、関係者それぞれがお腹に鉛のような問題意識を持って作品と向き合っていました。作中で「私のせいではない」「私は何も見なかった」など自分の責任を脇に置く大衆が本当の主人公だと思えますが、上



演から離れて時間が経つ中で、当時の問題意識が日常に埋もれている実感がありません。自分たちの目撃者としての責任とは何かを改めて考えたいと思っています」と話しました。

出演情報 ◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵、鈴木結里：『ハリー・ポッターと呪いの子』（J.K. ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出）2024年7月～TBS赤坂ACTシアター

★鬼頭典子：『淵に沈む』（内藤裕子作・演出）3/7～3/16 小劇場B1（下北沢）

★松井工：『真夜中に起こった出来事』（マーク・ヘイハースト作、小田島恒志訳、深作健太演出）3/7～17 よみうり大手町ホール、3/22・23 サンケイホールブリーゼ（大阪）

★廣田高志：ミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』（ジョセフ・スタイン台本、シェルドン・ハーニック作詞、ジェローム・ロビンス オリジナルプロダクション演出、倉橋健訳、滝弘太郎・若谷和子訳詞、寺崎秀臣日本版演出）3/7～29 明治座、4/5・6 オーバード・ホール（富山）、4/11～13 愛知県芸術劇場、4/19・20 富士

市文化会館ロゼシアター（静岡）、4/24～27 梅田芸術劇場（大阪）、5/3・4 上野学園ホール（広島）、5/9～18 博多座（福岡）、5/24・25 名取市文化会館（宮城）、5/31・6/1 ウェスタ川越（埼玉）

★采澤靖起：『フロイスーその死、書き残さず』（長田育恵作、栗山民也演出）3/8～30 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA\*、4/5 兵庫県立芸術文化センター、4/12 奥州市文化会館（岩手）、4/18 仙台銀行ホール イズミティ21（宮城）、4/25・26 梅田芸術劇場（大阪）

\*紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYAの公演には文学座支持会、パートナーズ倶楽部会員様の特別割引があります。詳細はこまつ座 TEL03-3862-5941 まで

★櫻井章喜、佐川和正、松岡依都美：『グッバイ、レーニン!』（ヴォルフガング・ベッカー/ベルント・リヒテンベルクによる同名映画原作、ベルント・リヒテンベルク脚本、長田紫乃訳、上村聡史演出）3/9～31 PARCO劇場、4/5～7 キャナルシティ劇場（福岡）、4/11～15 森ノ宮

ピロティホール（大阪）

★久米俊輔：『Mother～特攻の母 鳥濱トメ物語～』（藤森一朗脚本・演出）3/19～23 新国立劇場（初台）

★相川春樹：『痕、婚、』（原田ゆう脚本、シライケイタ演出）3/20～30 ザ・ポケット（中野）

★加納朋之、山崎美貴、細貝光司、高柳絢子、日景温子、宝意紗友莉：H.H.G.+朗読『その日のまえに』（重松清作、加納朋之構成・演出）3/20 おんがみらいテラス/カメラアステージ図書館（福岡）、3/22 熊本市中央公民館/菊池市七城図書館（熊本）、3/25 熊本市城南公民館

★山崎美貴、高柳絢子、日景温子、宝意紗友莉：H.H.G.+『夏芙蓉』（越智優作、加納朋之構成・演出）3/21 福津市複合文化センターカメラホール（福岡）、3/24 益城町文化会館（熊本）

★松浦慎太郎：『豚の報い』（又吉栄喜作、堀江安夫脚本、藤井ごう演出）3/21～27 ひめゆりピースホール（沖縄）、3/29 アイム・ユニバース てだこホール（沖縄）